

2022年横浜ナザレン教会・三位一体後第二十主日(10/30)礼拝

「魔術と福音」

使徒言行録第八章 9 節から 25 節

【聖書】

使徒言行録 8:9とところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。10 それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、「この人こそ偉大なものと言われる神の力だ」と言って注目していた。11 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。12 しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼(バプテスマ)を受けた。13 シモン自身も信じて洗礼(バプテスマ)を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。

14 エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。15 二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。16 人々は主イエスの名によって洗礼(バプテスマ)を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。17 ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

18 シモンは、使徒たちが手を置くことで、“霊”が与えられるのを見、金を持って来て、19 言った。「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。」20 すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。21 お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。22 この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」24 シモンは答えた。「おっしゃったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。」

25 このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証して語った後、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせ、エルサレムに帰って行った。

1 魔術と福音、シモンとフィリポ・使徒たち

礼拝で使徒言行録を少しずつ読んで行っています。先週は、第八章4節から13節までの聖書を読みました。今週は同じ第八章9節から25節です。9節から13節が先週とダブっています。今週は魔術と福音の違い、魔術師シモンとフィリポや使徒たちとの違いを見ていきたいので、この範囲を選びました。

さて、魔術、魔術師というと、私たちは、ハリーポッターや魔女の宅急便のキキを思い起します。現代世界を生きている者が、魔術や魔術師と関わるとしたら、映画や小説、ゲームな

どのフィクションの世界、現実の世界で関ることは殆どない、と私達は思っています。しかし、聖書の語る魔術、魔術師は、映画や童話の中の魔法使いとは、かなり違った意味を持ちます。聖書の中の魔術師は、ファンタジーの登場人物ではありません。実にリアルで私たちの周りにいます。聖書が語る「魔術」「魔術師」の本質を知ったら、実は、私たちは、魔術的なものに囲まれて生き、魔術師的な生き方をしていたのだ、と気づかされるのではないのでしょうか。

2 魔術の本質

さて、今日のエピソードに出て来る「魔術」「魔術師」というギリシア語は、色んな意味を持つ言葉です。魔術師の他に占星術者、賢者、博士、という意味があります。あと二カ月もしないうちにクリスマスですが、遠い国の博士たちが、はるばる砂漠を旅して、生まれたばかりの主イエスのもとを訪れた、そして、香料、没薬、黄金をイエスさまにささげて礼拝した、という有名なクリスマス物語。あの物語の中に出て来る「博士」と、ここの「魔術師」とは、実は同じ言葉です。しかし、描かれ方は随分と違います。かたや救い主誕生という星のお告げを聴いてはるばる旅をした博士たち、一方、サマリアの町を魔術で支配するシモン。「博士」「魔術師」もとは同じ単語なのに、全く違うように描かれています。何が違うのでしょうか。

ルカは、魔術師シモンについて次のように記します。「シモンは、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、『偉大な人物』と自称していた」。ここの「驚かす」には、先週も少し触れましたが、「甚だしく驚かせ正気を失わせる、気を狂わせる」という意味があります。そして、次の11節の「長い間その魔術に心を奪われていた」の「心を奪われていた」も同じ言葉が使われています。シモンは、驚くべき業でサマリアの人々の心をとらえ、他に目がいかないようにして、正気を失わせて心を奪っていた、とルカは語ります。それは、人々がシモンのことを「偉大な神の力だ」と褒め称えるほど(10節)。人は被造物、天地万物を造ったみ神になることなど、決してありません。ですが、シモンの力に魅入られたサマリアの人々は彼をまるで天の御神のように崇めていました。シモン自身がそう仕向けていたのです。サマリアの人々は、シモンにマインドコントロールされていた、と言えるでしょう。

彼は、何か特別な才能があったのは確かだと思います。その才能が、未来を予知するものか、人の病を癒すものか、誰も知らないようなことを知っている知識であったのか、それは分かりません。しかし、長い間、サマリアの人々を驚かせ続け、夢中にさせるような才能です。どのようなものあろうとも、それは神からの贈り物です。使徒パウロは次のように言っている通りです。「あなた方が持っているもので、神からいただかなかったものが何かあるのでしょうか。」わたし達も持っている善きものは、全て神から頂いたもの。たとえ、わたし達の努力や頑張りの結果、技能や知識等手に入れたものがあるとしても、努力でき頑張れる力や環境全てを自力で手にいれる事のできる人はありません。神からの贈り物、助け、支えがあったから努力できるし頑張れるのです。ですが、シモンは、そのような神からの贈り物である特別な能

力を、自分自身の力だと偽り、自分を神のような者として人々に崇めさせていました。

彼のそんな在り方は、18節から24節によく表れています。ペトロとヨハネは、サマリアの人々の上に聖霊なる御神が降ってくださることを祈り、人々の頭の上に手を置きます。すると、聖霊なる御神が来てくださいました。これを見たシモンは、急いで自宅に戻り、長年蓄えた財宝の一部を取り出します。そしてペトロとヨハネの所へと超特急で取って返し、言います。「この金と引き換えに、私が手を置いたら霊が与えられる力をください。」

しかし、ペトロは言います。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。」「滅びよ」とは、あまりに激しい言葉、ペトロの大きな憤りが窺えます。その憤りの理由は、シモンが「**神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。**」です。賜物というのは、無償のプレゼント、贈り物。その代金を払うとしたら、贈り物ではなく、売り物になります。シモンは神からの賜物を金で買って自分の所有物にしようとしているのです。しかも、シモンが買おうとした天からの贈り物は、聖霊。聖霊は霊なる御神です。シモンは神を金で買おうとしました。これ以上の冒瀆はありません。だから、ペトロは、「**お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。**」と言ったのです。「このこと」と訳されている部分は、他の箇所では「神の言」「福音の言」の「言」に当たる単語が使われています。神を金で買おうとするような在り方は、イエス・キリストの福音とは微塵も関わりがない！そんなことをする奴は、福音に与る権利も資格もない！とペトロは宣告します。そして、シモンに対し、徹底的な悔い改めを迫ります。「**この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。**」(22節)。しかし、シモンはペトロの言っていることが判らなかつたのでしょう。悔い改めの言葉は聞かれませんでした。

3 魔術に満ちるこの世界

さて、このような生き方をしているのはシモンだけでしょうか。ペトロは、シモンに対して「**お前の心が神の前に正しくないからだ。**」と言います。直訳すると「お前の心は、神の前に曲がっている」です。ペトロは、聖霊が下った直後、これと同じような言葉をエルサレムの人々に語っています。彼は主イエス・キリストについて様々な言葉で語り、最後に「**邪悪なこの時代から救われなさい**」と言って、悔い改めるように語りました。この「邪悪な」を直訳すると「まっすぐでない、曲がった」です。神の力を自分の所有物として誇ろうとする魔術的なものは、この時代のこの世界に満ちている、とペトロは言っているのではないのでしょうか。聖書は、そのようにわたし達に新しい世界の見方、神の側からの見方を教えてくださいます。

実際、聖霊をお金で買おうとしたシモンの行動は、私たちには、とつても馴染深いものです。「ほとんどの事がお金や権力など、この世的な力、人間的な力で何とでもなる」と信じこんでいるのが、まさに現代世界ですから。聖霊なる御神が降るのを実際に見たなら、シモンと同じような行動をとる、又は取りたいと考える人は多いのではないのでしょうか。お金さえあれば、神さえも買える、と思っている魔術師シモンは、極めて現代的な存在です。

ここで思い浮かぶのは世間を騒がせている元統一協会などセクトの在り方です。多くの宗教セクトでは、巧みに洗脳し、「教祖を信じて多額の献金をしないと、救われない、滅びる」と脅して搾取しているようです。しかし、人を救うという神の業をお金で買えるということじたい、聖書の神とは一切の関係がないことが今日の聖書で分かります。金も被造物、使えばなくなるもの、滅びゆくもの。どうして、儂いものと引き換えに永遠の救いを得ることができるのでしょうか。宗教セクトたちは、神とは何の関係もない、まさに魔術的なこの現代世界の住人です。

4 マザーテレサ

さて、今日のエピソードからマザーテレサの事を思い出しました。彼女が始めた「死にゆく人々の家」。インド、カルカッタの路上で誰にも看取られず汚物にまみれネズミにかじられながら死んで行く人々を見たマザーテレサ。彼女が「人としての死を迎えてもらおう」と始めた家、もう助からない路上生活者を受け入れ世話をし、最後の日々を過ごしてもらおう場所です。長い間路上生活を強いられ、衰弱し死が近い人々。その世話は決してきれいごとではありません、マザーテレサと仲間たちは淡々と働きます。これを見学しにきた大金持ちは、いいました。「100万ドル、一億五千万円もらっても、その重い皮膚病患者には触りたくない」。マザーテレサは次のように答えたそうです。「私も同じです。お金のためだったら、200万ドル、三億円やると言われても、このつとめは果たせません。しかし**神への愛のためなら喜んでします。**」

この彼女の言葉を皆さんはどのように聴くでしょうか。何故、彼女は重い皮膚病患者のために何の報いもなく働けるのでしょうか。それは、マザーテレサが毎日イエス・キリストに何ものにも代えがたい愛を頂き、その愛の内にしっかりと生かされているからではないか、と思います。

私たち人間は、自己中心な存在です、自分を拒否したり否定したりする人には、「あんな人、いなくなればいいのに」と呪う者。神に頼らず人間の力に頼りがちです。神から頂いた才能さえも自分自身で勝ち得たもののように勘違いし、自分の繁栄や満足の為に使おうとする。どんなにキレイ面しようとも、神が御覧になれば、自己中心という糞尿の穢れにまみれて顔を背けたくなるような面がわたし達にはあるのです。全く汚れのない聖い御神と私たちは、とても、一緒にいる事はできません。ですが、そんな人間の信仰的な常識を飛び越えて、汚れに満ちた私たちの世界に、一点の穢れもない神の独り子が来てくださいました。私たちを神の御前に、神の目に、傷も汚れもない者としてきよめるために来てくださいました。

マザー・テレサとその仲間のシスター達は、毎朝、ミサ、わたし達ふう言えば、聖餐に与っています。毎朝、主イエスの食卓で、キリストの身体であるパンに与った。そうする事で、主イエスご自身が、汚れにまみれる自分を命がけで洗い流してくださった、穢れを取り除いてくださったことを繰り返し思い起こした、そして、今朝も、この私の穢れを洗い流してくださ

っている、と示されて神の独り子の愛に出会っていたのです。その愛に、おそれおののいていた。何の報いも求めず、主イエスがご自身を差し出してくださった、彼女たちはそう心に刻んでいたからこそ、主イエスが自分にしてくださっているように、何の報いもなしに、死にゆく人々のお世話をすることができるのだ、と思います。いえ、何の報いもなし、というのは正確ではありません。彼女たちは、キリスト・イエスの深く強い愛を存分にあふれるほど頂いている。だからこそ、キリストから頂いた愛のほんの一部を死に行く人に返すことができるのです。そうして、彼女たちは、キリスト・イエスを証ししていきました。フィリポの在り方、ペトロとヨハネなど、キリストの弟子たちが始めた歩みを引き継ぐ者達です。

だから、キリスト・イエスにある愛の業は、先払いです。お金ではありません、お金以上に人を豊かにさせる永遠の愛が、わたし達には既に十分に注がれています。だから、彼女たちは、私たちは、大いに喜んで、楽しんで、日々のつとめを果たすことができます。

5 喜び

この世界の多くの人々が、生きる喜びは、お金や権力で手に入る、と信じています。人々は、神とは何の関係もない魔術師シモンの喜びを追い求めます。私自身もかつてはそうでした。今でもそういうものに惹かれる時があります。しかし、だんだんと、この世的な富や力がもたらす喜びが如何に儂いものか、が分かってきました。お金がなくなれば、富や権力がなくなれば、喜びだって去っていきます。それを皆、知っているから、もっともっと、と貪欲に富や力を追い求めるのでしょう。人の欲望に限界はありません。

しかし、主イエス・キリストを人々に証していく時の喜びは、私たちから取り去られることはありません。神を求めて生き続ける時、必ず与え続けられる喜び、死さえも超えて行く喜びです。

今日は、三年ぶりのバザーです。教会の会計は苦しいのは事実ですが、目的は教会の赤字補填する程の売り上げではありません。私たちの小さな業を父なる神さまがきよめて用いて下さり、一人でも多くの人々が、ここに教会がある事を知り、キリスト・イエスを知るきっかけとしていただくことです。わたし達が人を神から引き離し滅びに導く魔術ではなく、主イエス・キリストの愛に応じて生きる喜び、福音の喜びを伝えて行けますように、祈ります。